

畏敬の念を禁じ得ない李登輝先生

岡山県議会議員・岡山県支部相談役

若井 達子

オーラに圧倒されっぱなし

ずっと切望していた李登輝元台湾総統にお会いできるということで、期待と緊張に胸の鼓動が最高に達したとき、穏やかな笑みを浮かべてお部屋に入ってこられました。

大病から快復されて体調も気になるころでしたが、とてもお元気そうであ安心するとともに、がっちりした体格から発せられる半端のないオーラに圧倒されっぱなしでした。口調は流暢で淡々と語られ、私たちに割いて下さった三時間はあつという間に過ぎ、全員感激しきりで、興奮冷めやらずというその場の状況が今も鮮やかに蘇ってきます。

李先生はまず安倍総理について触れられ「アベノミクス」の八本の矢のうち二番目「経済政策」に注目。金融政策に加えて十年間に二百兆円といわれる「内強強化計画」の実施を高く評価、一国の経済の舵取りには強いリーダーシップが不可欠だが、安倍総理にはそれがあつようだと言われました。そして、グローバルリーダーの調停機能が失われた国際環境の中、リーダーの条件について言及、歴史における指導者の共通点は、その素質と能力に加え「誠意を持って民意を汲む」姿勢を持ち、戦争に訴えることなく秩序を保ち、国益を増進する方法を考える、結局忍耐力を持たないと本当の勇氣は出でこない、これこそ指導者が理想と



表敬訪問の岡山県支部と懇談される李登輝元総統（平成25年10月18日）

すべき精神であると強調されました。安倍総理には「謙虚さと冷静さ」という言葉を贈りましたが、総理の耳にぜひ直接この言葉をお届けしたいものです。

李先生はまた、武士道精神に代表される日本人の高い精神性に触れ、「武士道とは死ぬことと見つけたり」という言葉から「生」と「死」は常に表裏で、死を知ることによって生をどう生きるかを考え、そこから「私は私でない私」に辿り着かれ、いろいろな問題



李元總統と記念写真（李元總統の正面左が若井達子さん）

に直面するとき「自我」の思想を排除して客観的立場で正しい解決方法を考えることができた、と結ばれました。この「メモント・モリ（死を想え）」の思想はこの日もつとも印象に残り、李先生の大きさ、深さに畏敬の念を禁じ得ませんでした。

エバー航空台北支店なども訪問

さて、岡山県では本格的な東アジア地域への総合プロモーションを開始しており、エバー航空による岡山―台湾

線二便の季節運航が開始されています。平成二十五年四月からの搭乗率は平均七七・七%と非常に好調に推移しており、ぜひ通年運航実現をお願いしたいと希望していたところ、日本李登輝友の会事務局の尽力により、このたびの訪台でエバー航空台北支店を訪問することができました。

王課長、岡山担当の尤氏とお会いし、岡山―台湾線は今後とも継続するつもりであること、通年運航についても機材が調整できればその方向でという前向きなお返事をいただきました。

また、「太平洋そごう忠孝店」も訪問、岡山産の桃やブドウの販売状況について、販売されている日本の農産物のうち、ブドウ部門で岡山の「ピオーネ」が一位という説明がありました。値段は決して安くはありませんが、お買い求めいただいた台湾の皆さん、本当にありがとうございます。

今回私は三日間の短い日程でしたが、台北二二八記念館も見学。二二八事件

の被害者で、その後の白色テロで弟さんを亡くされている蕭錦文氏のお話を伺いました。インパール作戦にも参加され九死に一生を得ているにも拘わらず「私のふるさととは日本です」という蕭氏の言葉は胸に響きました。

また、明石元二郎・第七代台湾総督の墓所で献花もさせて頂いた。様々な出会いや学び、感動と共に帰国の途に着きました。ぜひもう一度、李登輝先生のご教示をいただきたいという思いを抱きながら。



藤原一雅支部長にこやかに話しかけられる李登輝元總統